



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部44円 題字 井戸知事

消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子

第二八回全国消防殉職者慰霊祭

日本消防会館ニッショーホールにて挙行される

第二八回全国消防殉職者慰霊祭が、平成二十二年九月一〇日午前一〇時から日本消防会館ニッショーホールにおいて、厳粛に執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に郷土愛護の精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消火活動を行い、また身の危険を顧みることなく懸命な防災活動を行い、不幸にも殉職された全国の消防団員・職員、及び一般協力者の方々です。祭壇には、今年六月に工場火災における消火活動中に殉職された、本県神戸市消防局速水消防司令をはじめ、今回あらたに九柱の御霊が合祀され、あわせて五四〇五柱の御霊が奉納されました。



第28回全国消防殉職者慰霊祭

式典には兵庫県から、関山会長をはじめ、遺族代表七名が参列しました。全国から多数のご遺族が今は亡き肉親の魂との再会を待つ中、「御霊の奉納」が行われ、黙祷を捧げた後、引き続き片山山日本消防協会長の式辞があり、内閣総理大臣を始めとする多数の来賓から追悼のことが贈られ、最後に遺族代表のことがありました。その後は、参列者が故人の冥福を祈り献花を行い、江戸消防記念会から鎮魂の歌（木遣り）が披露され、式典は厳かに滞りなく終了しました。

消防フェスタ二〇〇九

雨にも負けず進む消防魂

相生市消防団

市民の防災意識を高めようと今年も相生市消防団は「消防フェスタ二〇〇九」を相生湾及びポート公園で、八月九日（日）に開催しました。

当日は、台風九号接近による雨模様となりましたが、雨にも負けず、各種目に果敢に挑む人たちが行列をつくり、最後まで熱気があふれていました。

海上の部では、「分団対抗イカダレース」や「ミニ皆勤橋走破競争」を実施し、団員の体力錬成訓練を兼ねた競技であったこともあり、観覧席から盛んな声援が送られました。

陸上の部では、市内自主防災組織、危険物安全協会等対抗の「バケツリレー競走」が行われ

ました。バケツリレーは、初期消火として重要な方法であり、各チームは、真剣に取組み、息の合ったところを見せていました。

ステージ上では、人形の胸部にビニールプール用ポンプを入れ心臓マッサージを行うことにより上部に設置した風船を割る「胸部圧迫風船割ゲーム」を行い、民報テレビの女性レポーターも飛び入り参加されて観衆より大きな拍手がありました。

また子供を対象にした「大声コンテスト」では、「火事だ」「助けて」と大声を出して、騒音計を覗き込んでいました。

最後は、姫路市消防局と相生市消防本部合同による水難救助



消防団対抗イカダレース



胸部圧迫風船割ゲーム

台風九号災害の消防団員による支援

平成二十二年八月九日に台風九号の影響による集中豪雨により、西播磨地区を中心に水害が発生し、大きな被害を受けました。被災地の住民の方々が大変困難な生活を強いられている状況であることから、県協会は、消防団員の佐用町への派遣を各支部に依頼しました。

この活動は、各消防団の迅速な対応のもと、支援活動に従事した消防団員数は、延べ一、三〇〇人にものびりました。

被災地では、日中の厳しい日差しのもと、一日も早い復旧を願う派遣消防団員により、浸水

家屋の家具の撤去や床下の泥の運び出し等が行われました。



活動の様子

訓練を実施しました。帰港中の漁船から火災が発生し、乗組員が海に転落したとの想定で姫路市消防艇と兵庫県消防防災航空隊の消防防災ヘリによる連携訓練を予定していましたが、ヘリは天候不良のため不参加となり、会場につめかけていた観衆は残念がっていました。キビキビした救助活動を展開し無事

救出されると、市民の大きな拍手とともに「消防フェスタ二〇〇九」の幕を閉じました。消防団と市民が直接触れあっているのが、市民の防災意識の向上、団員が互いに切磋琢磨し、消防団の士気の高揚という「消防フェスタ」の目的は、雨にも負けず達せられたものと確信します。



義援金の手渡し

関山巧県協会長 被災地へ

関山巧県消防協会会長は、八月一三日に佐用町、一八日に朝来市、宍粟市を訪問し、被災地の様子を視察するとともに、各消防団に激励金を手渡しました。

人的被害	死者	二〇人
	行方不明者	二人
	負傷者	三人
	軽傷	四人
住家被害	全壊	一六六棟
	大規模半壊	二七七棟
	半壊	六九六棟
	床上浸水	三三三三棟
	床下浸水	一、四八八棟
	一部破損	二棟

平成二十二年台風第九号による被害について (平成二十二年九月十八日現在)



上郡町消防操法大会 (小型ポンプ)

上郡町消防団は、一本部一九分団で構成され、約一五〇平方キロメートルを管轄区域とし、その大部分が山林地帯であります。

上郡町は、兵庫県の南西部に位置し、北部から東部にかけては佐用町、たつの市、相生市に...

南部は赤穂市、西部は岡山県にそれぞれ隣接しています。町域の大半が山地、丘陵地帯に...

上郡町消防団

地区通信

「さわやかに歴史と未来の出会いまち」

皆が慕う頼もしい団長

宍粟市消防団

春名 玄貴 団長



宍粟市は、平成一七年四月一日、兵庫県の播磨北西部に位置する宍粟郡四町(山崎町、一宮町、波賀町、千種町)が合併し...

て発足しました。住基人口(八月現在)は、約四三、六〇〇人、面積は、六五八・六km²で県下二番目の面積を有しています。

わがまちの団長さん

162

この放射光を用いてナノテクノロジー、バイオテクノロジーや産業利用まで幅広い研究が行われています。



平成21年上郡町消防出初式

厚く、団幹部としての活躍を期待する多くの団員が慕う団長です。また春名団長は、平成一七年四月に合併した宍粟市の将来の...



大型放射光施設スプリング8

また、海釣りを趣味とされる団長ですが、最近では多忙な消防団活動のため、自慢の竿をふるい、釣った魚をさばくことも少し減ったとの話もあります。

平成二一年の消防出初式は、河川改修工事の関係から例年の場所が使えず、役場駐車場での開催となったため、伝統の一斉カラー放水が実施できませんでした。

消防団内は勿論、消防署との連携を密にし、地域住民の安全・安心な暮らしのために全力で取り組んでおります。

近年、全国的な問題として消防団員数の減少が叫ばれる一方で、町民の消防団員に対する期待は高まるばかりであり、上郡町消防団もその期待に応えるため、消防団の機動力を高める設備、施設の計画的な整備や消防団組織の再編の検討などを行いつつ、火災時の出動はもとよ...



松野 弘行

『われら若手消防団員』

神戸市中央消防団 第六分団



大塩 大輔

『消防団に入団して』

加西市消防団 第一〇分団日吉部

私は、平成一九年四月に加西市消防団第一〇分団日吉部に先輩方より誘いを受け、入団いたしました。入団当初は、本当に...

右も左も分かりませんでした。先輩からの丁寧な指導や新入団員訓練を受けて、団員として活動していくことについての不安は払拭されました。

が増えたことは本当によかったと思います。これは消火活動以外にも、訓練や地域での活動に...

われら若手消防団員 (22)

私の場合、若手消防団員といっても、経験年数が浅いだけで、既に年齢は不惑を越えてしまっている。私が入団した年に、同じ会社の後輩諸氏が、県下の他地域の分団長まで務め上げ、引退しているのである。

しばしば、「都会の消防団って何をやるの? 本当に必要なもの?」と尋ねられる事がある。当初は皆く返答が返せなかったが、最近、地域性や地理面、インフラ面の差により活動内容が異なり、地域に応じた対応が必要である事が説明できるようになった。



今思うこと

丹波市消防団山南支団
専任副団長
村上 公司



「地域を愛し、地域の人々に愛され信頼される消防団員たれ！」これが私の信条であり、また団員に望む基本的理念です。
私が消防団に入団したのは、家族とともに地元に戻ってきた三二才の時でした。突然家を訪

問してきた近所の先輩からの誘いを断り切れず「ちよつとだけ」の軽い気持ちで入団しました。年齢的には既に中堅の新入団員。無礼で生意気でした。消防団員としての責務を感じるよりも、今までにない年齢幅の広い交流ばかりを楽しんでいました。先輩諸氏が築き上げられた消防精神や厳しい規律などの伝統は、頭と詰所の片隅に追いやっていました。
年を経て役職を重ねるにつれ、自分のとった稚拙で軽率な行動に恥ずかしさを感じていきます。また、同時に地域の方々から受けている期待の大きさと果たすべき責任の重さも実感するようになりました。
「地域住民の生命と財産を守

ること」聞き慣れた言葉ですが、とてつもなく大きな消防団の使命です。しかし、難しいことは考えず、ただ地域を大切に思う心。この気持ちを礎に消防団活動をすれば必ず責任は果たせると思っています。
昨年の定期改選では、平成生まれの新人団員が誕生しました。いよいよ消防団も新しい時代に入ったものと思えました。これから我々消防団を取り巻く社会環境はより一層厳しくなる反面、地域社会から受ける期待はさらに大きくなっていくと思えます。しかし、それに応えることは難しいことではありません。ただひたすら地域を愛する気持ちを持ち続けられれば良いと思います。

消防団今昔

62

「災害支援活動を通して」

高砂市消防団副団長
谷本 政男



高砂市は、結婚式やめでたいたとぎ謡される、「たかさごやこの浦舟に帆を上げて・・・」ではじまる謡曲「高砂」と平和と長寿の象徴である「尉と姥」のいわれの発祥の地であります。
本市は兵庫県の中南部、播磨平野に位置し、北は遠く中国山脈の支脈を仰ぎ、南は瀬戸内海播磨灘に臨んでいます。
市の東端を加古川の清流が南北に走り、その豊かな水利は優れた景観、肥沃な土地となつて

市民生活の大きな根拠となつていきます。
高砂市消防団は、七分団、団長以下六七五名の団員が一致団結し、地域と密着した地域防災の担い手として幅広く活動しています。
装備については、全分団に消防ポンプ自動車、可搬式ポンプを配備し、平成二二年度には、財団法人日本消防協会から、活動支援車の交付を受け、消防団活動がより迅速、適確に行えるようになりました。
放水、ポンプ取扱等消防訓練に加え、消防団員を対象とした普通救命講習を平成一六年度から実施し、応急手当の技術取得に努め、又消防団員及びその家族による献血を平成一七年から年二回行い、市民が安心・安全に暮らせるよう地域防災活動を行っております。
この度七月の中国・九州北部

豪雨、台風九号による大雨での被害状況をニュース等で見たたびに、平成一六年度に発生した台風二三号と前線による大雨での被害状況が今でも目に浮かびます。
県内に大きな被害をもたらした台風二三号で被害をうけた洲本市宇山地区へ、災害支援ボランティアとして高砂市消防団も現地での支援活動を行いました。
現地に入つて見ると、どこから手をつけてよいのかという状況に、水害の恐ろしさを目の当たりにし、言葉がでませんでした。
被災された民家のよごれた畳、布団、たんす等の搬出作業を行いました。その重さを今でも覚えております。
台風九号により被害をうけた佐用町にもこの度、災害支援ボランティアとして参加し、被災

「こんにちは！兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/

地区通信

「私たちの活動」

神戸市西消防団 平野支団

私たちは、神戸市の西部に位置する、西区平野町・春日台・竹の台を管轄区域とする神戸市西消防団平野支団第一分団で、団員数一八名で活動しております。

明石川中流域に沿って開かれたこの地域では、弥生時代の遺跡も数多く確認されています。また、都市近郊型農業地域と近郊ベッドタウンが共存し、西神ニュータウン開発に伴う公共施設の建設や、幹線道路・アクセス道路等の整備が進められています。

昨年、私たち分団の小型動力ポンプが一〇数年ぶり更新されました。
最初は、新型ポンプの高出力・重量等に戸惑い、振り回されていましたが、何度かの月例点検・訓練を繰り返すうちに操作にも慣れ、スムーズに放水出来る様になりました。
このポンプは、あの忌まわしい震災後、「サントリーレディーオープン ゴルフटनाメント」から、毎年、神戸市に寄贈して頂いている積載車・小型動力ポンプのうちの1台です。
近々、積載車の更新も予定されている様なので、感謝しつつ、更に点検・訓練に力が入り、災害への備えも入念になっております。

こうした団活動のなか、毎年、年始めには、神戸市の消防出初式に参加し式典参列・未来っ子パレード（事前に募集のあった子供たちを積載車に乗せての車両行進）・岸壁放水隊などで防

災広報活動の一環として活動しています。
特に、岸壁放水では、神戸市内の全消防団とともに、メリケンパークの岸壁に部署し、一斉放水を行います。海水を使用している放水のため、後のメンテナンスは大変ですが、放水中は壮観で思わず、我を忘れてしまいます。

実戦訓練の一環としてのポンプ操法競技会は、全市の競技会と西消防団独自の競技会の二種ありますが、隔年で春または秋に開催されております。
競技内容は、異なりますが、共に正確な操作、スピードが要求されます。

訓練中は、思うような操作ができず、また、タイムも伸びずに苦しい思いをしますが、何度か練習も練習し、競技会本番でも、皆で協力し全力を出し切った達成感が、団員同士の絆を一層強くしてくれます。

地元での活動として、自治会と合同で、地区内の防火水槽・消火栓の点検、使用方法の確認等を行い、設置が義務付けられた住宅用火災警報器を取りまとめ、配布したりしています。
また、平野町川祭り、夏祭り等では、会場警備・駐車場への車の誘導を担当し、消防団主催で、ビンゴゲーム・魚（うなぎ）のつかみ取りを行い、将来、地元消防団を担ってくれる子供たちに喜ばれております。

更に年末には、防災訓練を兼ねた餅つき大会では、西消防署の支援の下、心肺蘇生法の講習等（昨年は、地震体験車「ゆれるん」に出場していただきました。）を行っており、区内の小学校3・4年生を対象とした「西区安全安心体験学習」では、放水体験を通じ何かを感じ取ってもらえればと思いい、活動しております。

ここ数年、若者の地元離れがすすんでおり、新入団員の確保が、難しい状況が続いています。が、より一層の広報活動等を通じて、消防団活動が単に防災だけではなく広く地域とのつながりに貢献しているという理解を深め広げてゆきたいと思っています。



された民家の泥かきを実施し、少しでも被災された方のお役にたつたのではと思います。
大きな被害をもたらした現場を見るたびに、改めて水防活動等の大切さを実感しました。
今後も市民の生命と財産を守る使命を担っていく消防団、消防団員として市民の期待に応えられるよう訓練に取り組んでいきます。



地震体験車「ゆれるん」



西消防団平野支団第一分団第一班

北から南から

「守れ 文化財」

三木市消防団

三木市は、古い歴史と自然に恵まれ、播磨風土記には、億計(おけ)、弘計(をけ)二皇子の古代ロマンの物語が記されています。また、戦国時代には、東播八郡二四万石を領した別所氏の居城があり、三木合戦によって荒廃した町は、豊臣秀吉の復興策によって商工業が活発化し、今日の金物産業の発展の基礎をつくりました。

源も多彩なものがあります。また、県の防災拠点施設である「県立三木総合防災公園」や世界最大級の実大三次元震動破壊実験施設(E-1デیفュエンス)があり、多くの消防防災関係者が三木の地を訪れておられます。

三木市と吉川町の合併により、名実ともに山田錦(酒米)の主産地となり、三木金物ブランドとともに更に発展が期待されます。一方、市内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、数多くのゴルフ場が立地するほか、「グリーンピア三木」「三木ホースランドパーク」「山田錦の館」「吉川温泉よかたん」など、観光資源

本市の消防団は、安永二年に既に火消、消防御人足の制度があり、以来、時代の変化とともに火消組、消防組など幾多の改変をみて、昭和二十九年七月の三木市発足と同時に、従来の三木町、別所村、志染村、細川村、口吉川村の消防団を統合して三木市連合消防団が組織されました。昭和三十八年一月には、指揮統制の一本化を図るため、三木市連合消防団が発展的解消して三木市消防団が発足し、その後、平成一七年一〇月二四日に吉川町との合併により、三木市消防団三八分団に統合整備され

現在に至っています。

今回は、本市消防団が口吉川町で実施しました機動隊合同の建物・林野火災防御訓練についてご紹介させていただきます。その前に、みなぎの平野の丘陵地である口吉川町にはもみじで有名な蓮花寺という山寺があります。蓮花寺は大化元年(六四五)法道仙人の開基と伝えられ、また空海(弘法大師)の修行の場とも伝えられています。寺領一六町四面、一八院三三坊の大伽藍を容し、隆盛を極めていたことが、天正七年の三木合戦の戦火を受け、今は江戸時代に再建された本堂、多宝塔、鐘楼、仁王門などがあります。鐘楼の梵鐘は貞和二年(一三五六)の銘を持ち、県の指定文化財に指定されています。

このお寺では、鬼踊り(追儺式とも呼ばれている)が、約八〇〇年前から始まったと伝えられています。明治の初めごろ一時中断し、その後も復活と中断を経て、昭和四一年奥の院改修落慶法要を機に復活。昭和四七年二月、檀家による保存会が組織され、毎年行われるようにな



蓮花寺鬼踊り



建物・林野火災防御訓練

り、現在は二月の第一日曜日に行なわれています。市内にも数ヶ所の寺院において、追儺式として勇壮な鬼踊りが行われていますが、蓮花寺鬼踊りのような本堂の中でたいまつを持った鬼たちが、火の粉を舞い上げらせながらたいまつを振りかざし、そのたいまつを柱に勢いよく打ち付け、観客の頭上に振り放つといった独特な鬼踊りは他では見ることができません。ひとつ間違えば本堂全焼というような大惨事になる鬼踊りですが、毎年平穩無事に行事が催されています。その陰には、文化財を火災から守るといふ強い使命を持った消防団員のお陰であり、常日頃からの災害の未然防止策や災害発生を想定した各種訓練の成果が出ていると思われれます。最近では、春の火災予防運動期間中の平成二二年三月一日(日)に市内六地区の機動隊合同の建物・林野火災防御訓練が実施されました。この訓練は広範囲に拡大した火災を想定して、トランシーバーの活用による情報の共有と連絡体制や、先着隊と応援隊との連携による防御体制の指揮命令の確立を目的に実施されました。今後より迅速かつ有効な訓練を重ね、消防活動の向上を目指します。



【事務局からのお知らせ】
「兵庫消防」一〇月号は休刊させていただきます。

暑さも和らぎ、時折さわやかな秋風を感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今月号の一面では、第二八回全国消防殉職者慰霊祭、消防フェスタ二〇〇九、台風九号に対する救援ボランティアについて掲載しております。消防フェスタ二〇〇九の記事は相生市消防団から寄稿をいただきました。また、今回の消防団今昔には丹波市消防団山南支団専任副団長村上公さん、高砂市消防団副団長谷本政男さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

編集後記

美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する モリタです。

株式会社 **モリタ**

本社 〒544-0003 大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山

- ・操法最適ホース：コンベVシリーズ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般

有限会社 **西垣消防器具製作所**
669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
TEL:(079)672-3131
FAX:(079)672-3132
E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp